

佐那河内小学校

「学力向上実行プラン」

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	ステップアップテストの結果から、国語科の「言語事項」、算数科の「知識」においては、一定の成果が見られる。 学力に個人差がある。 漢字やローマ字を確実に覚えていなかつたり、漢字を文章で適切に使えなかつたりするところがある。 身に付いた知識技能を活用することができていない。		<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、生活場面や活用問題で使うことができる。 語彙数が増え、正しい言葉や漢字で文章を読んだり書いたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の単元テストで、正答率を80%以上にする。 ノートや日記で適切な語彙や漢字が使えているか点検する。 	具体的方策の追加 新しい単元に入る前に準備テストを行い、前学年までの内容について、必要であれば復習し、知識・技能の習得をより推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 朝のドリル学習で、漢字の小テストや計算の反復練習を行うことにより、基礎基本の定着が図れつつある。 意味が分からぬ言葉が出てきたら国語辞典調べ、専用のノートに書くようにして、語彙数を増やしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元により平均点のばらつきはあるが、概ね正答率は80%以上ある。 日記やノートで文章を書くときに、既習の漢字を使えつつある。
よ さ 課 題	具体的方策(教員の取組)		取組指標	評価	次年度における改善事項		
	<ul style="list-style-type: none"> 朝のドリルタイムで漢字・計算など繰り返し行う。 ノート・日記指導を充実させるとともに、10分間読書や週末読書を奨励する。 構造的な板書を心がけ、言語環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> 朝の活動時間を1週間で1単位時間確保する。 優れたノートや日記を紹介する。 長期休みの補充学習の継続。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童の到達度をしっかりと把握し、基礎的・基本的な力の定着をより一層進める必要がある。 国語辞典の活用など、今年度効果的であったものを来年度全校で行えるように検討する。 より個に応じた指導を行うため、TTとの連携の仕方を検討し、改善する。 		

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 課 題	既習内容を基にして、新しい考えを導き出したり表現したりできる児童が多い。自分の考えを文章で表現する力がついてきた。		<ul style="list-style-type: none"> 目的や相手を意識し、根拠を明らかにしながら自分の考えを積極的に話したり書いたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の振り返り活動で、「自分の考えを発表したり書いたりして伝えることができた」と答える割合を70%以上にする。 	取組の継続	<ul style="list-style-type: none"> どの教科でも、自分で考える時間や振り返りの時間を設けている。自分の意見を記述したり発表したりするときは、根拠を明らかにするように指導している。 国語科では、図書室にある本を活用し、並行読書の充実を図っている。
よ さ 課 題	理由づけをする、具体例をあげる等、筋道を立てて説明したり文章を書いたりすることに課題がある。要点を整理し、まとめる力に個人差がある。		具体的方策(教員の取組)	取組指標	評価	次年度における改善事項
	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の中で、自分の考えを筋道立てて話したり書いたりする時間を設ける。 作文読本を効果的に活用する。 新聞を教材として活用したり、国語科で並行読書を取り入れたりして、様々な文章や資料を読む機会を充実させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードミーティングの手法を取り入れたり、ディベート、グループでまとめて発表する機会を増やしたりする。 学期に2回程度、作文読本に数名ずつ投稿する。 月2回朝の学習時にNIEを実践する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードミーティングの手法を効果的に取り入れる必要がある。来年度、再度研修で扱い、学年の発達段階に合った活動を取り入れる。 NIEの充実を図る。 各教科において、言語活動を設定した単元計画や授業計画を一層進める必要がある。 	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	落ち着いて話を聞き、真面目な学習態度の児童が多い。与えられた課題について、積極的に取り組んでいる。		<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組み、自分自身を向上させたいという意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の振り返り活動で「自分から進んでめあてをもって学習している」の割合を70%以上にする。 	取組の継続	<ul style="list-style-type: none"> めあての提示、振り返りの時間の確保に努めている。 毎月「生活がんばりカード」で家庭学習の調査を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めにめあてを提示することで、1時間の見通しをもつことができ、意欲的に活動に取り組めている。 他学年の読書の記録を見ることで、様々なジャンルの本に出合うことができている。
よ さ 課 題	自ら課題を見つけて、見通しをもって取り組むことが苦手である。向上心をあまりもたず、現状に満足している児童が多い。		具体的方策(教員の取組)	取組指標	評価	次年度における改善事項	
	<ul style="list-style-type: none"> めあての提示とともに考える時間や振り返りの時間を必ず設定する。 「家庭学習の手引き」を配布し、学年に応じた家庭での学習時間を確保できるように家庭と協力して取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 学びの質が高まるように授業改善に努める。 計画的に家庭学習時間の調査を行い、保護者へ家庭学習の重要性の啓発を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 宿題としての自主学習にとどまらず、主体的に学習に取り組む児童を育てるための研究・研修をし、全校で取り組む。 「生活がんばりカード」の結果を定期的に保護者に知らせ、さらなる自主学習の向上を図る。 目的意識や相手意識を明確にした言語活動に取り組めるような単元構成をする。 		

平成31年度 学力向上ロードマップ

